第25回全国スカウトフォーラム　報告書

作成者:阿賀野第1団ベンチャー隊 坂井 天真

【開催概要】
開催日:2024年11月2日~4日
開催場所:兵庫県立嬉野台生涯教育センター
参加者人数
スカウト:74人
運営委員:15人
【テーマ】
「高校生年代×地域社会　～私たちだからできること～」
第1回シニアスカウトフォーラムで「より良い社会を目指して、スカウトは何をすべきか」について討議されたことから、「スカウトの日」は始まりました。
「社会との協業」の必要性が高まる中で、スカウト運動による地域社会への貢献がより一層求められています。
ベンチャースカウトの可能性を見出し、広げ、ベンチャースカウトだからこそできる“未来につながる地域貢献活動”を当事者意識に基づき考える機会とするため、テーマを選定しました。

【日程】
※11月2日大雨の影響により山陽新幹線が一次運行停止により集合時間が遅れてしまい、初日に予定されておりました開会式、オリエンテーションは1部のスカウトは参加できませんでした。

時間	11月2日	11月3日	11月4日
6:00		起床	起床
6:30			
7:00		朝礼	朝礼
7:30		モーニングゲーム	点検
8:00		朝食	朝食
9:00		県フォーラム報告会	全体会
10:00		分科会1	
11:00		分科会2	閉会式
12:00		昼ごはん	
13:00	開会式	分科会3	
14:00	オリエンテーション	分科会4	
15:00	基調講演		
17:00	夕食	分科会5	
18:00	交流会①	夕食	
19:00	お風呂	交流会②	
20:00		風呂	
21:00	消灯		
21:30		消灯	

【プログラム内容】
・開会式
開会式は大雨の影響のため参加してないため内容が分かりません。

・オリエンテーション
オリエンテーションは大雨の影響のため参加してないため内容が分かりません。

・基調講演
行政を行なっていたことを地域の人で行うことで自分たちが地域の問題に対しての問題を解決するために意識を向けることができる。などのことを話していました。その後、地域社会の問題を話し合うグループワークを行いました。

・交流会①
交流会①では、2つのゲームを行いました。
1つ目は塩、コショウゲームを行いました。このゲームはペアを作ることが出来る様々なワードを1人で1枚背中に貼り目があった人と自己紹介とはいかいいえで答えられる質問を１回してお互いのペアを探すゲームです。
2つ目はサイレンサーゲームを行いました。このゲームは言葉を発さずに誕生日順で列ぶゲームです。たったの3分でみんながならび終わりほとんどの人が順番にならぶことが出来ていました。

・県フォーラム報告会
グループの中で1人3分ずつ自分たちの県で出てきたフォーラムの報告会を行い、2分の質疑応答の時間が与えられました。
ただ、私は発表時間ないに説明することができましたができるだけ短縮して説明したために他のスカウトがあまり理解することができませんでした。
新潟県の発表をし終わり他のスカウトからはこのようなことを言われました。

1. 高校生の短所の一つで経験不足という点において、行政のイベントをに乗っかるのはどうでしょうか
2. 新潟県しかできない独自のイベントを行うのはどうでしょうか

の二つの意見が出ました。

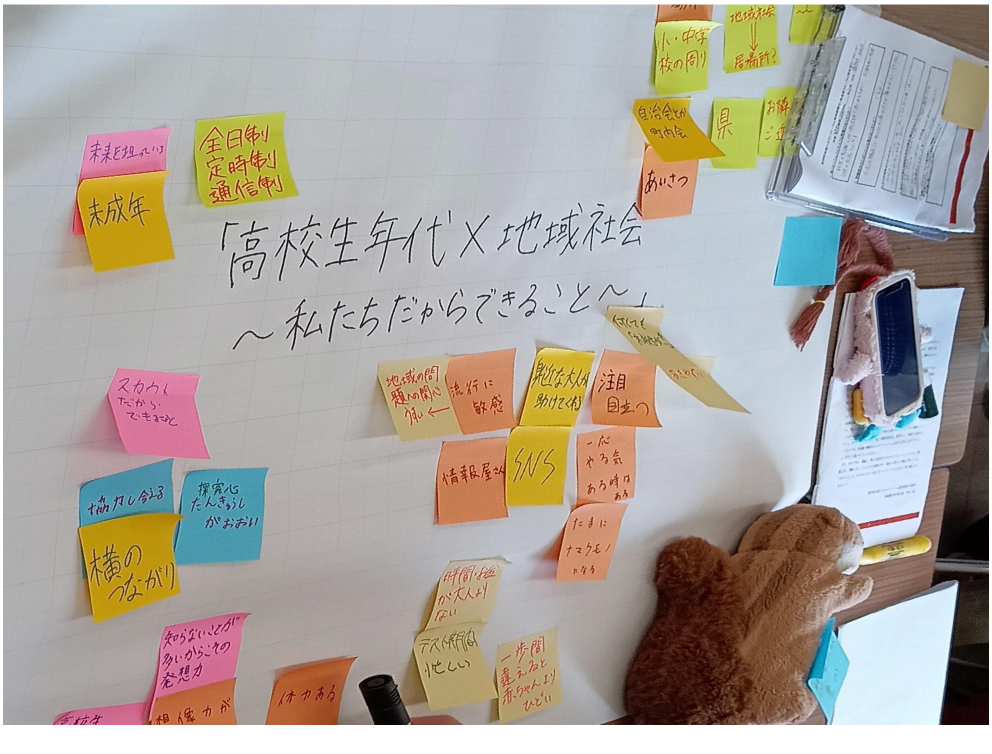
ほかの県では、ゴミのポイ捨て、人口減少＆流出、地域の魅力が広がってないなど私たちと同じ問題が沢山出てきました。それ以外にも各県特有の問題もありました。例えば、兵庫県では、南北問題というのがありました。これは兵庫県を瀬戸内海側の南もそれ以外の北に分けた時北にある名産地が全て南にあり、新幹線が通るでかい駅などの都市も全て南にあるという、南に集中しすぎているという問題です。他には、静岡県では、外国人（特にブラジル人）が多く、その¼が浜松市におり、文化や言葉の違いが問題になっている。などが出ました。

・分科会1

①グループでの役割とルールを決めました。
私のグループでの役割はタイムキーパーを行いました。
私たちのグループで決まったルール

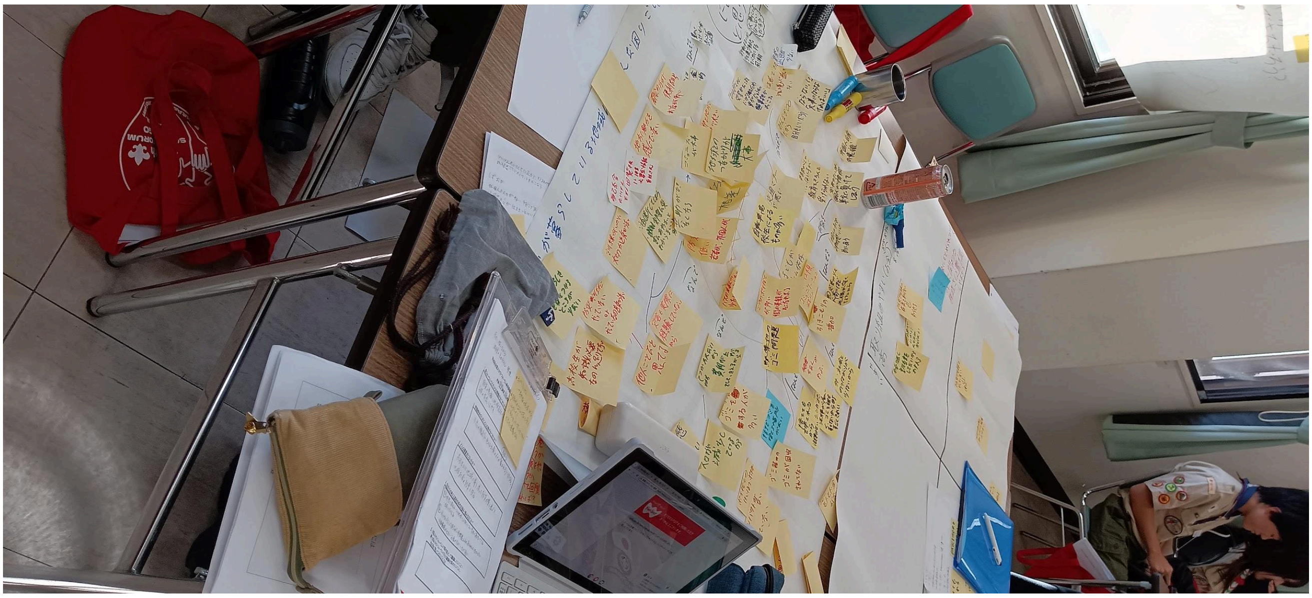
1. 雰囲気良く、取り組む
2. 真面目になりすぎない
3. 机を綺麗に保つ
4. 話を広げる努力をする
5. ルールにとらわれない

②テーマについて自分たちはどのように理解しているかを話し合いました。
私たちのグループでは、高校生年代、地域社会でどのようなことができ、どのようなことがあるのかを書き出しました。



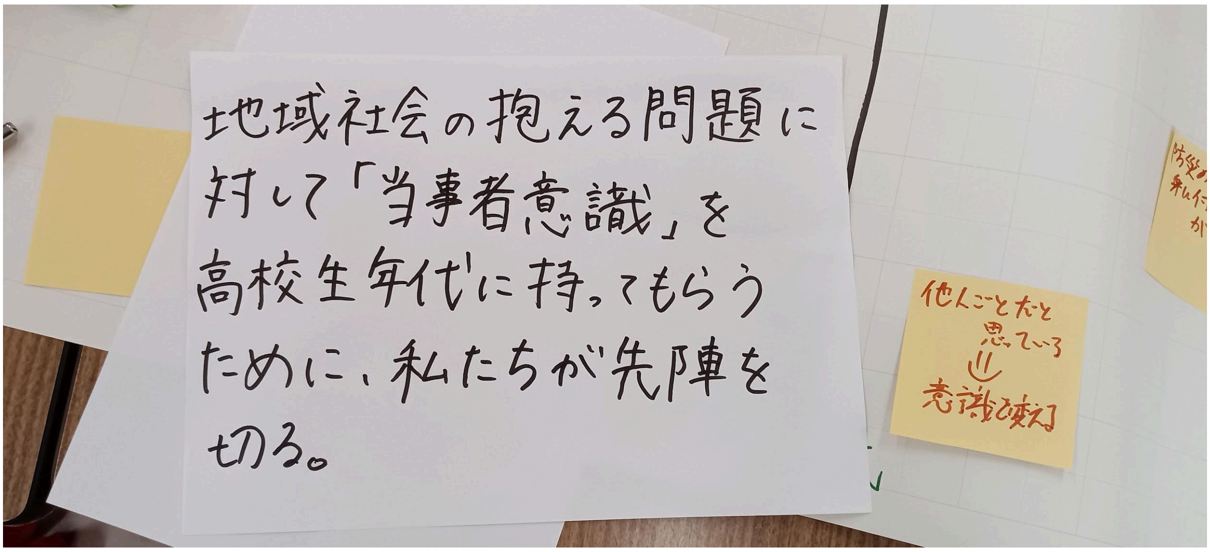
・分科会2

基調講演の後に行われたグループワークで、地域の問題がどのような原因で起きているかを話し合いました。



・分科会3
分科会2で、出てきた原因を見て、自分たちのグループで問題に対しての評価基準を決め、その評価基準を使い優先順位を決めました。
私たちのグループでは、何を評価基準にするか話し合いました。しかし、さまざまな意見が出て決めることができませんでした。

・分科会4
①各グループでの提言文を決めました。
分科会1～3までの話し合いを含め自分たちのグループの考えを合わせて各グループで一つずつ提言文を作成しました。
私たちのグループでは、地域社会の問題を解決していくには行政だけじゃ解決していくことは不可能と考え、地域の人々が一人ひとり当事者意識を持ち自分たちで問題を解決していくようにしたら良いと考えました。そして、私たち高校生年代のスカウトが何ができるかを考えたら、自分たちで地域の問題に対して先陣を切って行っていき、同年代や地域の人たちと行っていくことで問題は解決すると考え、この提言文になりました。

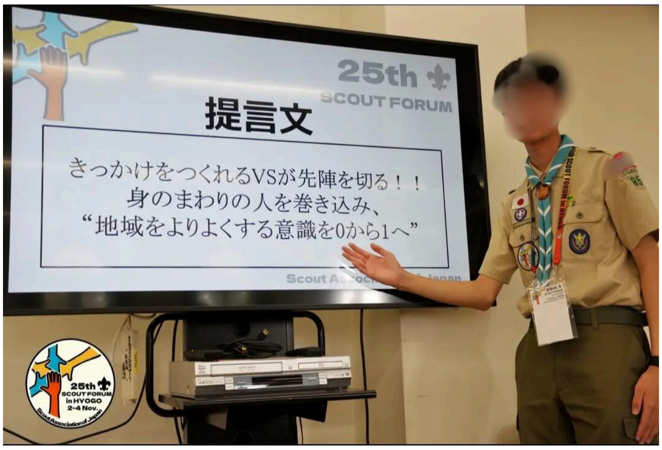


②各グループの議長を決めた。

・分科会5
議長は議長会議を行い
それ以外のスカウトはPDCAサイクルの講習を受けました。
私は議長じゃないので、PDCAサイクルの講習を受けました。
講習では、何かしらをPDCAサイクルに当てはめてみました。
議長は各グループで出てきた提言文を話し合いをして、各グループの意見をまとめて、
【フォーラム宣言】を決めました。

・交流会②
猛獣狩りをしました。
このゲームでできたグループで自己紹介とお土産交換をしました。

・全体会
分科会5で議長達が各グループで出た提言文を話し合い、決まった提言文についての質問をしていました。



・閉会式
全体会において参加者から承認が出た《フォーラム宣言》が議長　平岡　仁の手からコミッショナーに渡されました。

【フォーラム宣言】

きっかけをつくれる**VS**が先陣切る！！
身のまわりの人を巻き込み、
“地域をよりよくする意識を0から1へ"

「きっかけをつくれるVS」はVSが他の高校生年代よりも企画や計画を立てることが上手にできるのでVSが地域社会の問題に対してのきっかけをつくってくれると考えたみたいです。
「身のまわりを巻き込み」は高校生などの若者や社会に出ている大人または、お年寄りの人達に一緒に地域社会の問題に意識を向けて欲しいと考えたみたいです。
「地域をよりよくする意識を0から1へ」は今ある意識を0としてその上に進化して欲しいと考え0から1へになりました。

〈その結果〉
【フォーラム宣言】
新潟県では、県フォーラムに出てきた地域の世代間の交流を企画・実施する・地域の環境衛生保全・献血の啓蒙・救急法普及・伝統継承などが出ていたので、アフターフォーラムでこの活動を行ってもいいと思います。また、県アフタフォーラムでフォーラム宣言についてスカウト同士で話し合い新しいことを行うのも良いと考えています。

【隊長の所見】
坂井天真さんの話しをお聞きしました。

新潟フォーラムで採択した内容は、各班内の数分のみの発表と質疑だけで行われたようです。
そのため、全国フォーラムでは、先ずは各県の発表内容を持ち寄り、話し合い、25回全国フォーラムとしての採択がされています。
そこで、これから新潟では、その全国フォーラムで採択された内容を軸に、新潟フォーラムで採択された事を絡めて、進めて行けたら良いのではないかと考えます。
坂井天真さんには、報告会では、文章だけでなく、口頭での詳細な報告もお願いしています。
赤塚隊長